

「んしょつと♡

ほらっ♡ほらっ♡

アタシの生膣気持ちいい？ドーターくん♡」

「ああっ…あっ…！

き、気持ちいいです…最高ですっ…！」

（ゆ、夢でも見てるのか…!?

ずっと憧れだったフウロさんと…

な、生ハメセックス…!）」

じゅっ♡

じゅっ♡

「アタシもすっごく気持ちいいよ♡

あー、ストレスぶっ飛ぶ♡

ちようどいいところに3人も童貞くんいてくれてよかった♡」

きゅん♡

きゅん♡

ぬぷっ♡

ぬぽっ♡

ぐちゃっ♡

ぬぷっ♡

「ほんとゴメンネ♡
アタシのストレス解消に付き合ってもらっちゃって♡
今日はチャレンジャーも多かったし
輸送の仕事もあるし大変でさ♡
こーいう日は童貞チンポ食べないと
スツキリできないんだよね♡」

「いいえっ…光栄ですっ…!!
フウロさんのためなら俺たちの童貞なんて
いくらでも捧げますっ…!!」

はっ♡

はっ♡

はっ♡

たっ♡

たっ♡

「ありがと♡嬉しいな♡
そっちの二人もちゃんと筆下ろししたげるから
ちよっと待っててね♡」

ぬちゃっ♡
ずいっ♡

はっ♡

「フ、フウロさっ…
お、俺もう我慢できなくてっ…
みっ…見抜きいいですかっ…?」

「お・俺もっ…!」

「えっ?見抜きっ?」
「アタシとセックスするまで
無駄撃ちはしないでほしいんだけどな」♡

「で、でも今のままじゃ…
フウロさんの裸とニオイだけで射精しちゃいそうで…」

「も♡
童貞くんはホント我慢強いんだから♡」

ぬぷ♡
ぬぽ♡

ぐちゃ♡
ぬぷ♡

「でも見抜きはもったいないからダメ♡
アタシが手でシコシコしたげるから♡
これで気持ちよくなるうね♡」

「あっ……！
フ、フウロさっ……！マジですかっ……！？」

「あ、あひっ……
フウロさんの手コキ……！」

「ウフフッ♡
どっちのおちんぼも童貞くっさあ♡
こんなの嗅いじやったらアタシどんどん
アガってきちゃいますよお♡」

「ぎゅっ♡」

「ぎゅっ♡」

「はっ♡
ずっ♡
ちゃっ♡」

「ぬっ♡
ずっ♡
ちゃっ♡」

「あ、そう言えばアタシ
パイロットグローブしたままだったけど…
このままシゴいて大丈夫かな？」

「だ、大丈夫ですっ…
むしろそれでお願ひしますっ…!!」

「フウロさんの手袋で手コキ…
お、俺の夢が叶う…!!」

「うっわっ♡
なんだか二人ともヘンタイさんみたいだよお?
二人がこのままの方がいいんならそうするけど♡」



ぬぽ♡
ぐちゅ♡

ぬぽ♡
ぬぽ♡

「さうて♡
左側の童貞おちんぽくんはあ…♡」

「あつづくて硬くて
しかもカリ高だね♡
アタシかったあいおちんぽ大好き♡
こんな良いおちんぽで童貞なんだ♡」

ラッ♡

ラッ♡

（あっ…あっ…!!
フウロさんが俺のおちんぽ褒めてくれてる…!!）

ぬぷ♡
ぐちゅ♡

ぬぷ♡
ぬぽ♡

「次に右側の
童貞おちんぼくんはあ〜♡」

「あ〜♡こっちもかったあ〜♡い♡
しかもすっごく長い…♡
このおちんぼじゃアタシの弱いところ
すぐ突かれちゃいそうだな〜♡」

（ううううっ…!!）
幸せだっ…!!フウロさん大好きっ…!!）

「二人ともすっごく
美味しそうなおちんぼしちゃって…♡
どっちを先に食べるか迷うな〜♡
どっちも食べちゃうんだけど♡」

シッ♡

シッ♡

ぬぷ♡
ぐちゅ♡

ぬぷ♡
ぬぽ♡

「フ、フウロさん……!!
二人に手コキしながら腰もしっかり振って……!!
す、すげえっ……!!」

「(そ、それに両手で手コキすると……
おっぱいが……おっぱいが
たふたふ揺れて……!!)」

「フフッ♥そしてそっちのキミは
さっきからどこ見てるのかな♥」

「あっ……ごめんなさ……!!」

「ウフフ♥見るだけでいいの?」
今アタシ両手塞がってるから触られても
抵抗できないんだけどな♥」

「っ……!そ、それって……!!」

シッコ

シッコ

シッコ

シッコ

たやう

たやう

ぬちゃっ♥
ずゅいっ♥
はちゃっ♥

ぬちゃっ♥
ずゅいっ♥

(あっ…! ああああっ…!!
ずっとオカズにしてたフウロさんのおっぱいがっ…!!
お、俺の左手にっ…!!)

「あはっ♡どうかな?
アタシのおっぱい♡」

「や、やばいっす…!!
柔らかくて弾力があって…!!
お、俺もう死んでもいい…!!」

じゅっ♡

じゅっ♡

あん♡

あ♡

げんげん♡

あはっ♡

ぬぷ♡
ぬぽ♡

ぐちゃ♡
ぬぷ♡

「えっ? それは言いすぎだよ♡
それに死んじゃったら一度とアタシと気持ちいいこと
できなくなっちゃいますよ♡」

「あっ…はあっ…
フウロさんのおっぱい…俺も…!」

「ああ…あああ…! 触りたい…揉みたい…!」

「はいはい♡後でいっぱい触っていいから♡
も♡男の子ってみんなおっぱい大好きだよね♡
おっぱいぐらい言ってくれれば♡
いつでも触らせてあげるのに♡」

じゅっ♡

じゅっ♡

「いっ! いっでもっ…!」

「うん♡触るぐらいならいつでも良いよ♡
アタシおっぱい揉まれるの気持ち良くて好きだしさ♡」

「マ、マジで…!? 天使…いや女神…!!」

ふっ♡

ふっ♡

んふっ♡

ぬぷ♡
ぬぽ♡

ぬぷ♡
ぬぽ♡

「んっ♡おっぱい揉まれてたら
なんだかぶっ飛びスイッチ入ってきちゃったなっ♡」

「ウフフ♡童貞おちんぽ
おまんこより先に舌で味わっちゃおうかしら♡」

（し、舌で…!!?
ま…まさか…!!）

はっ♡

はっ♡

「あゝ♡どっちも美味しそうだから
すっごく迷っちゃうなっ♡
ど・ち・ら・に・し・よ・う・か・な♡」

はっ♡

ぬちゃっ♡
ずっ♡

ずちゃっ♡
はちゃっ♡

「こっちに決りめた♡」

「あっ…! あああああっ…!」
フ、フウロさ…!」

「んふっ♡
やっぱり童貞ちゃんぽおいひ…♡」

ぱくっ♡

（ん…♡童貞我慢汁だらだら…♡
これ全部吸い出したら
どんな反応してくれるのかな♡）

ぬぷっ♡
ぬぽっ♡

ぬぷっ♡
ぬぽっ♡

「あはああああっ……！
先っぽ吸うのだめえっ……！」

(ウフフ♡
かわいいー反応♡
我慢汁おいし…♡)

いゅるるるる

（ううううううっ…
なんでそっちばかり…！
俺もしゃぶってほしいのにつ…！！
俺もっ…俺もおっ…！）

ぬちゃっ
ずいっ

は ず
ちゅっ♡
ちゅっ♡

「は〜い♡
次はこっち♡」

「あっ…! あああっ…!」

「んふっ♡
自分だけしてもらえないかとも思った?
みんなのしゃぶってあげないと
不公平だもんね♡」

（あああああ…
こんな女神を疑うなんて…
俺は…俺はあ…!）

ぽく♡

ぐちゅ♡
ぬぷ♡

ぬぷ♡
ぬぽ♡

（ん〜♡こっちもおいひ…♡
童貞おちんぼの臭いが口いっぱいに…♡）

「ほっ…！おほおっ…！！
亀頭にフウロさんの舌がつ…！！」

（あゝ気持ちいい…♡
こんな立派な童貞おちんぼ3本同時に味わえて
意識ぶっ飛んじやいそ…♡）

れろっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ずゅっ♡
はちゃっ♡

ぬちゃっ♡
ずゅっ♡

「フ、フウロさっ……!!
俺もう限界っ……射精ちやいそ……!!」

「お、俺も……」

「俺もです……!!」

「えい? みんなもういくの?
男の子は女の子がいくまで我慢するのが
マナーだよ!♡」

シッコ♡

シッコ♡

シッコ♡

シッコ♡

「って言ってもアタシも結構絶頂近づいてるけど
少しだけからかっちゃおっかな!♡」

ぬぷ♡
ぐちゅ♡

ぬぷ♡
ぬぽ♡

「ほらほら♡
我慢♡我慢だよ♡」

「あっ…あふあふ…
それ無理いつ…♡」

いゅるるる♡

ぱく♡

しゅ♡

しゅ♡

(ウフフ♡おちんぽすっごいビクビクして…♡
ホントに限界なんだ♡カワイイ♡)

ぬぷ♡

ぬぽ♡

ぐちゃ♡

ぬぷ♡

「ほらキミも♡
男の子なら女の子を待ってあげなきゃ♡」

「おっ…ほぐおあっ…」

我慢…! フウロさんのために我慢っ…!」

(アタシのために我慢してくれてる…♡♡♡
童貞くんってホントかわいいな♡)

♡♡♡♡♡

いっ♡

れっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

いっ♡

んっ♡

はっ♡
ずっ♡
ちゃっ♡

ぬっ♡
ずっ♡
いっ♡

「ほらほら♡
キミが頑張ってアタシのことイかせなきや
みんなイけないよお♡」

「あがぁっ…!!
そ、そんなピストン早くうっ…!!」

「ちゃーんと我慢できたら
アタシに膣内射精してもいいんだけどな♡」

ふっ♡

ふっ♡

「なっ…なかだっ…!!
フウロさんにつ…!!?」

（あ、おちんぼ膨らんだ♡
カワイソーだしそろそろからかうのも
終わりにしよっかな♡）

ふっ♡

ふっ♡

ふっ♡

んふっ♡

ふっ♡

ぱちゅ♡

ぬぷっ♡

ずぶっ♡

ぬぷっ♡

「あゝ♡アタシもそろそろイッちゃいそ…
みんなもイッていいよお♡」

「ほっ…ホントですかっ…!?!」

「うん♡」

あ、そうだ♡アタシがいくまでの
カウントダウンするから、
みんなと一緒にイこっか♡」

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

「3つ数えたら二人はアタシの顔に、
キミはアタシの膣内に思いっきり射精してね♡」

ぱちゅ♡

ぬぷ♡

ずぶ♡

ぬぷ♡

「さあ〜ん♡」

(はっ…はあっ…!!
なかだしっ…!!なかだしっ…!!)

「に〜い♡」

(あああ出るっ…出るっ…!!)

あん♡

「い〜い〜ちい♡」

(なんでそんなゆ〜くりっ…!!
あああもう無理っ…!!)

「ぜえ〜ろっ♡」

しゅ♡

しゅ♡

しゅ♡

しゅ♡

あ♡

あは♡

ぱちゅ♡

ぬぷ♡

ずぶ♡

ぬぷ♡



(はぁぁぁっ……♡
イッちゃったぁ……♡
それにすごい量の精液でまみれて……♡
気持ちいい……♡ぶっ飛んじやいそう……♡)

「ウフフ……♡
みんな気持ち良かったぁ……？」

ムワ……♡

はっ♡

はっ♡

むわぁ……♡

はっ♡

びゅん♡

きゃん♡
きゃん♡

ミロク……♡

「さ、最高でした……やばいです……！」
「こんな気持ち良い射精初めて……」

「フウロさんの手袋コキ……俺の夢……！」

「アハ♡アタシも気持ち良かったよお♡」

ふん♡

〜

「ふう…♡えつとお…♡
二人ともいつぱい出しちゃったけど大丈夫？
セックスできそう？」

「で、できます…！
フウロさんとなら何発でも出せます！」

「お、俺も…
フウロさんのためなら朝まで
お付き合いできますから…！」

「よかったあ♡
明日も朝から仕事だからそんなにはできないけど♡
ちやーんとみんなに
童貞卒業筆下ろし生膣内射精させたげるからね♡」

「やっぱり女神…女神フウロ様…！
一生ついて行きます…！」

「はあ…はあ…ここは天国か…？」



「フ、フウロさ…
もう無理…一滴も残ってない…」

「え、でもおちんぽまだ固いままだし
もっと出せるでしょ♡」

「そ、それはフウロさんがポケモン用の
ドーピングアイテム飲ませたから…
で、でも精液はもう…」

はっ♡

はっ♡

びゅ♡

「でもアタシとなら何発でも出せるって言われたしい♡
アタシまだまだストレス解消したいな♡」

「だ、だってほら…
もう朝の6時ですよ…
今日は朝から仕事あるんじゃない…」

はっ♡

びゅ♡

ぬちゃっ♡
ずゅいっ♡

ずちゃっ♡
はちゃっ♡



「あれ？もうそんな時間？
いっけな〜い、今日は7時まで
ライモンシティに行かなきゃいけないからあ、
そろそろシャワー浴びないとね〜」

ふっ♡

ふっ♡

びゅ♡

んふっ♡

びゅ♡

（し、幸せすぎて…
タワーオブヘブンが見えた…）

（マジで全部絞り取られた…
もう1週間は射精できなさそう…）

（や、やっと終わった…
8時間以上ぶっ続けは無理…
ジムリーダーの体力やばすぎだろ…）



「そうだった、いいこと思いついた♪
今日アタシお昼からフリーなんだ♥」

「だからライモンシティからカミツレちゃん連れてきて
5人でもっと楽しいことしましょう♥
12時までに精液溜めといてね、みんな♥」

「「「えっ……」」」

